

## 韓国映像文化における歴史イメージ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大原, 志麻 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007805">https://doi.org/10.14945/00007805</a>

# 韓国映像文化における歴史イメージ

大原志麻

## 1. はじめに

韓流ドラマの日本への輸入金額は、2001年の300万円から2012年には72億円となった。韓流ドラマは定着し、自己パロディがみられる程になってきた。『ラブ・ミッション～スーパースターと結婚せよ！～』<sup>1</sup>は、『シュリ』<sup>2</sup>や『IRIS』<sup>3</sup>といった代表的作品のパロディで構成されている。北の韓流取締班下士と韓流スターの恋人同士が、熱帯魚の水槽の前でキスシーンを演じ、お互い撃ち合って女スパイが死ぬ、というように全編模倣で構成されている本作品では、韓流ドラマの公式が以下のようにまとめられている。

死んでいたはずのカンウが実は生きており、銃で撃たれても命だけは助かりました。しかし記憶を喪失します。広い朝鮮半島の中で偶然再会した一人の女医と恋に落ちるが、それは愛した彼女の妹で、しかも僕たちは腹違いの兄妹。徐々に明かされていく出生の秘密。さらに男は死の病にかかり、結局は涙の結婚式を挙げる（吐血する）。…それで視聴率は上がる。視聴者は低俗といいながらも大好きで、制作側の問題ではありません<sup>4</sup>。

このような人気の出るとされるパターン化は、時代劇でも顕著である。韓国人の学生たちに尊敬する人を尋ねると、必ず決まった人物の名が挙がる。まず訓民正音を創った世宗、抗日のシンボル明成皇后、「朝鮮のジャンヌ・ダルク」柳寛順、救国の英雄李舜臣と並んで国民を統合する象徴である、良妻賢母の鑑であり5万ウォン紙幣に載っている申師任堂などである。このような教育的背景は、韓流映像文化における一大ジャンルである歴史映画やドラマの画一化とも繋がっているだろう。そこにみられる歴史観は中国や日本のものとは一致せず、一方的に感じられるものもあり、また完全なフィクションも存在する。

しかし、韓流時代劇が、偽書をもとにしたファンタジーで、中国や日本のような大国になれなかった惨めな歴史の鬱憤を晴らすとする感情的な中傷<sup>5</sup>は論外であり、現段階での韓流時代劇における歴史イメージについての研究水準は極めて低い。他律的な抗日アイデンティティーともとられるが、実際視聴率ランキングの上位10位には、反日的な内容のもの

<sup>1</sup> 스파이 명월, 2011.

<sup>2</sup> 쉬리, 1999.

<sup>3</sup> 아이리스, 2009. また Internal Affairs (香港, 2002) のパロディもみられる。

<sup>4</sup> 『ミス・リプリー』(미스 리플리, 2011)でも、「偶然の再会」「財閥の御曹司」「兄妹」といったパターンについて言及している。

<sup>5</sup> 宮脇淳子『韓流時代劇と朝鮮史の真実。朝鮮半島をめぐる歴史歪曲の舞台裏』扶桑社、2013年。

はみられない<sup>6</sup>。また時代劇の傾向は、これまで先入観からまとめられてきたものとの矛盾が多々見られる。

ここでは韓流映像文化における歴史叙述が史実とどう違うのかという突き合わせはしない。どの国においても映画やドラマは現代において商業的目的で現代人に向けて制作されるものであり、たとえ歴史をテーマにしても、想像や意図の入らないものは皆無である。ドラマの時代背景や制作年によっても主旨は異なってくる。このため、虚構と史実の二項対立から史実はこうだった批判するのはナンセンスである。本論では、韓流映像文化における歴史イメージにどのように韓国社会の現実が反映されているかの相関関係についてまとめる。韓流映像文化の変化と過去の解釈を把握することは、韓国社会の現在そして未来を理解することにつながる。学術的な歴史離れが進む昨今、映像表現は広義の意味において重要な歴史叙述のジャンルとなっている。テレビや映画を通して、隣国の歴史への関心が高まる中、韓流時代劇における過去の解釈におけるバイアスを理解することは、膠着した歴史解釈の、政治や教育を越えたところでの相対化に繋がるだろう。

## 1. 小国意識

『武神』<sup>7</sup>において高麗は蒙古に「砂漠の砂粒のように小さい国」と侮られ、現代ドラマにおいても「こんな小さい国なのに、なんで病院が遠いんだ」<sup>8</sup>と皮肉られるなど、国土の小ささに絡めた台詞は韓流ドラマ全般でしばしばみられる。韓流映像文化の中で顕著なのは、このような小国意識からくる領土拡張への憧れである。小ささを払拭しようとするかの如く、領域や位階に「大」をつけ、「実は中原を支配していた」という言説がしばしば用いられる。『ロスト・メモリーズ』<sup>9</sup>では、正しい歴史に書きかえるにあたってのキーワードとして、「日中韓の共同プロジェクトによる高句麗の領土復活と南北統一」がある。韓国における領域概念は高句麗が理想とされ、広開土王と、中国への三大勝利、すなわち乙支文徳が隋を滅亡に至らしめた薩水の大勝利、淵蓋蘇文が李世民率いる唐の大軍を壊滅させた蛇山の大勝利、楊萬春による安市城の勝利と共に語られる。乙支文徳將軍に因んでソウルメトロ乙支路駅が名づけられ、淵蓋蘇文には各地に伝説や縁のある地名があることから、これらの勝利が長い間朝鮮人の外勢に対する抗争意識と自負心の源泉となっていることがわかる。

『淵蓋蘇文』<sup>10</sup>では、淵蓋蘇文が広開土王の碑とともに白頭山でのお告げを受ける。

<sup>6</sup> 従軍慰安婦を扱った第10位の『黎明の瞳』(MBC, 2001)を除いて、最高視聴率の上位を占めているドラマは日本との関係を取り上げたものではない。視聴率順位については『太祖王建』インフォレスト株式会社、2012年、75頁を参照。

<sup>7</sup> 무신, MBC, 2012.

<sup>8</sup> 신드롬, JTBC, 2012.

<sup>9</sup> 2009 Lost Memories, 2002.

<sup>10</sup> 연개소문, SBS, 2006-2007.

初めに天と地が生まれた。我が民族の歴史は今この時代より斯自力の天海近くで 8000 年以上前に始まったのだ。国名は桓国で、桓因が 7 代にわたり 3301 年の間統治した。その後太白山に桓雄が倍達国を建て、神市を都とした。この国は 1565 年 18 代に渡り続いた。だが国が長く続けば当然分裂が起こる。14 代王の蚩尤天王時代に西土の中国三皇五帝の一人軒轅が倍達に侵攻してきた。蚩尤天王は軒轅との 73 度に渡る戦いの後、軒轅を捕えて自分の臣下にしたのだ。檀君王儉が朝鮮を建国し、平壤を都とした。そして 1500 年間国は存続した。朝鮮は 47 代に渡り 2069 年続いたのである。さらに今から 900 年ほど前北扶餘に続き、大朱蒙王がこの大高句麗を建国したその後西土と遼東が争いを繰り返した。そこに高句麗の領土を広げる広開土大王が登場する。蓋蘇文は大王を人生の指標とする。

このどこよりも起源が古く、中国を従えたという言説や檀君神話はほとんどのドラマで言及される。『淵蓋蘇文』では、隋に勝った戦勝国である高句麗が、なぜ敗戦国で歴史のない野蛮な国に対し、捕虜を返さなければならないのか、弱腰外交はやめるべきで、唐の初代皇帝であれば対等に外交することが可能であったということを人々が語る。

『広開土大王』<sup>11</sup>の最終回では、高句麗が 407 年幽州（北京）と北燕一帯を占領し、百濟、新羅、倭国、北魏、靺鞨、ピレなどの周辺国を属国とし、高句麗王が王の中の王「太王」と民の間で呼ばれるようになる。北朝鮮を表象している後燕を属国とし兄弟国となったので中国も恐れなくてよく、辺境の小国ではなく、どの国にも脅かされない強い国となり広き中原の地に力強く進んでいく姿を示し、この記憶を引き継いでいくようメッセージを残す。『大王の夢』<sup>12</sup>では、三国統一を果たした新羅が、白村江という東アジアの世界大戦に勝利を収め、唐の植民地政策に対抗し続けたと誇らしげに称えられている。

『大祚榮』<sup>13</sup>は、唐の李世民が大敗し、高句麗の将を称えつつ憤死するシーンで始まり、高句麗は唐が恐れる唯一の大国であることが繰り返される。高句麗の将軍と設定されている大祚榮の父は、広開土王が征服した土地、万里の長城の外は高句麗の土地であり、また遼東は高句麗の土地であると主張し、また 1000 年続いた高句麗と比較して、建国してまだ 30 年の唐を軽蔑する。また淵蓋蘇文は自尊心を捨て自ら属国となろうとした王を切る。淵氏兄弟の葛藤と分裂による高句麗滅亡については、男生の二面性<sup>ナムセン</sup>によって非愛国的要素を緩和している<sup>14</sup>。

<sup>11</sup> 광개토태왕, KBS, 2011-2012.

<sup>12</sup> 대왕의 꿈, KBS, 2012-2013.

<sup>13</sup> 대조영, KBS, 2006-2007.

<sup>14</sup> 蘆泰敦（橋本繁訳）『古代朝鮮 三国統一戦争史』岩波書店、2012 年、174 頁によれば淵蓋蘇文は「お前達兄弟は、水と魚のように和合し、爵位を巡って争うな。もし、そうしなければ、必ず隣国の笑いものになるである」（是月、高麗大臣蓋金終於其国、遺言於兎等曰、汝等兄弟和如魚水、勿争爵位、若不如是、必為隣笑）と遺言したが、兄弟間の抗争により

しかしドラマの時代背景が高句麗滅亡後になると、広大な領域意識は過去のものとして一線を画し、小国であることの危機感が全面に出てくる。そしてかつての領域概念を唱える者は荒唐無稽であると殺される。『太祖王建』<sup>15</sup>において、弓裔は平壤遷都について、隋を屈服させた高句麗の都西京(平壤)は広開土太王が国名を天下に広めた本拠地であり、「高句麗は平壤から中原を支配した」と主張し、祖先の中心地で北伐という大業を成し、古の高句麗の地と首都をよみがえらせるレコンキスタを掲げるが、民によって打ち殺される。

高麗の三代目の王を扱った『光宗大王 ~帝国の朝~』<sup>16</sup>では、王規が、渤海の大祚榮の弟がトルコにまで及ぶ旧高句麗領を二回巡り探し出した『檀奇古史』を引き合いに出し、「渤海と呼んでいた大震国は、6000里に及ぶ後高句麗のこと。高句麗の子孫を天下に知らしめなければならない。しかし帝国の子孫たちはこの狭い領土で自分の利益しか考えていない。今この国がまさにそうである」と戒め、また新羅からきた秘密の歴史として「乙支文徳將軍の千人の兵により隋は滅び、安市城の戦いから高句麗將軍淵蓋蘇文が長安に攻め入り太宗が土下座して將軍に詫びて降伏し、遼東・遼西を征服し、中国全土が高句麗の支配下となった。高麗は高句麗の略字であり、子孫である」のでそれを誇りにし、拡大政策に転じるべきだと主張するが、殺されてしまう。

『大王世宗』<sup>17</sup>では、公嶮鎮にある朝鮮最北端の高麗の境の石碑が見つけれられ豆満江400里を国境とすると『世宗実録地理志』に記されているとし、明に対して朝鮮の領域を主張するが反応は芳しくない。李氏朝鮮末期の『大望』<sup>18</sup>にも小国であることの危機感と、「かつての領土回復」意識が見られ、クンピョン大君が「こんな狭い国では一度の凶作で死者が出る」とし、「長白山の北まで昔は支配が及んでいた」という言い伝えから、富国強兵と対外戦争による国土回復を目論むが、悪役として殺害される。

『明成皇后』<sup>19</sup>では、欧米列強から朝鮮王朝の命脈を守り抜き、独立を勝ち取ったとされる主人公の姿勢が称えられている。この中で大院君が洋擾と昌徳宮建設への批判について「朝鮮は生き残っているのが不思議なほど小さな国で、いち早く西欧の知識を取り入れている日本と比べて、一握りの両班が利権を貪っている。イギリスの使節が西太后に謁見した際、12の門を越えなければならず、清朝はとて一度では呑み込めない。四度五度かかると考えた。朝鮮は壬辰倭乱で昌徳宮が破壊されてからは、景福宮には門がなく、政殿のすぐ後ろに王に寝所がある。三千の殿閣はなくとも、宮殿のかたちは整えなければならな

---

高句麗最高執権者である長男男生が反逆し国を滅ぼしたため、その愚かさや卑劣さが歴史の嘲笑の対象となった。彼等の行為は自分たちの運命を誤っただけでなく、数多くの高句麗人の涙と恨を産んだ、とされている。ドラマでは男生に対抗する次男の大義と、唐に寝返った男生が後に大祚榮に協力する展開で、淵氏のイメージをできるだけ損ねないようにしている。

<sup>15</sup> 태조 왕건, KBS, 2000-2002.

<sup>16</sup> 제국의 아침, 2002.

<sup>17</sup> 대왕 세종, KBS, 2008.

<sup>18</sup> 대망, SBS, 2002.

<sup>19</sup> 명성황후, KBS, 2001-2002.

い。建設に10年かかろうと20年かかろうと一度に呑み込める国だと思われてはならない。いくら小国でもこれくらいはしなければならぬ」と反論し、そして江華島条約の内容を理解できない文官の外交への無知を嘆く。ドラマでの大院君は「頑迷固陋」「やみくもな排外主義」という通常のイメージと異なり、また明成皇后も「日本によって歪められた像」に修正を加えるかたちで、視野の広い柔軟で聡明な女性として描かれている。理想的な領域を享受していた高句麗、それが過去のものとなり領土回復を目論む高麗、少しでも国境を広げようとするが無理だと考える李氏朝鮮、そしてその末期には国土の小ささを嘆くのみで留まる、と領域意識は時代背景によって変遷する。

『太王四神記』<sup>20</sup>も高句麗最盛期の領土拡大がテーマの、一見ナショナリスティックなドラマである。しかし主要登場人物は「チュシンの王」と距離を置き、談徳に領土拡大の関心はない。むしろ、偉業に巻き込まれていくことで不幸になる。その達成は、未来を表象する子供の名にもあるようにアジク（まだ）であると締め括られている。新羅の海路を拓いた張保臯が主役の『海神』<sup>21</sup>においては、李師道の蜂起が「そもそも高句麗の領土だったものを取り返すものだ」とする主張に張保臯が同意し、反乱が韓国目線で正当化されている場面もあるが、在唐新羅人や新羅坊<sup>22</sup>の描写は、大陸を支配する覇者としての韓国ではなく、強制移住などで東ユーラシアに散らばっているが<sup>23</sup>、現在でも大韓航空の直行便が多く飛んでおりコミュニケーションが密な朝鮮系の人々と韓国の和合と連携が意識されている。『太王四神記』と『海神』に現れる領域概念の表すところは、隋唐を追い払い大陸を征服する大国としての韓国ではなく、朝鮮人居留地統合による広がりである。西は大陸に面し、残りは海に囲まれた半島では、閉塞感と封建制の限界、そして大陸と繋がっているがゆえの大国の脅威とそれに対抗する領土拡大の希求が島国よりも大きいこと、そして国家としては小国ながらも国境を超えて広がる韓国人ネットワークへの自負がみてとれる。

## 2. 対外関係

韓流歴史ドラマでおなじみの李丙勳監督は、韓国が「常に周囲に脅威を感じ、いつも外部の勢力による心配が絶えず、重い苦痛を抱える民族である」と述べている<sup>24</sup>。朝鮮半島は、その十字路的な位置から幾度となく外敵の侵入を受けるといふ歴史体験を持ち、それは歴史上密接な関係にあった中国、蒙古、日本、そしてアメリカの表現に如実に表れている。

<sup>20</sup> 대왕사신기, MBC, 2007.

<sup>21</sup> 해신, KBS, 2004-2005

<sup>22</sup> 統一新羅時代に新羅人が中国の山東半島や江蘇省に作った租界地。本国・唐・日本・東南アジアを結ぶ東シナ海での貿易活動の拠点。

<sup>23</sup> 韓国語が使われている地域は大韓民国で4800万人、北朝鮮で2500万人、延辺朝鮮自治州などの中華人民共和国で約100万人、在日韓国・朝鮮人約70万人、旧ソ連地域で約40万人である。

<sup>24</sup> 『馬医(마의, MBC, 2012-2013)NHK放送直前特番』2013年6月30日。

ほぼ全ての韓流歴史ドラマでは、党派争いが重要なテーマとなっているが、そのほとんどが親唐・蒙・明・清派と強硬な自立派の対立を扱っており、それは TPP 推奨か自国産業保護かをめぐる二分する世論ともつながる。外国が他人事として描かれがちな日本と異なり、韓国ドラマでは外国は非常に身近なものとして描かれる。

a) 中国

現代劇ではアメリカ留学により、時代劇では中国留学によって先進的な文化を身につけ一発逆転するシーンがよくみられる。大国に事え従う事大主義をとってきた歴史的経緯から、脅かす大国としての中国が、今の中国とアメリカを行ったり来たりするかたちで表象される。しかし高句麗は例外で、その中国への優越が語られている。『大祚榮』では、中原では無数の国が興亡を繰り返したが、高句麗は千年国を保ち、帝国を支配したとする。『太祖王建』で弓裔は「新羅は唐の力を借りたので、高句麗の領土をろくに得られなかった。自力で三韓統一をしなければならぬ」と述べ、中国の朝鮮半島への介入をさせまいとする。「朝鮮民族のあるべき像」とされる新羅<sup>25</sup>による三韓統一の羅唐同盟による成立の矛盾について、『大王の夢』においては、金春秋を対唐依存派に<sup>26</sup>、金庾信を自立派にと、二人の英雄の立場や金春秋自身を分裂させて描いており、依存派の金春秋の即位は、鬮川に矛盾の矛先を向けることで筋道を立てている。

『大王世宗』では、訓民正音に対する崔萬理の反発という、自立派對至誠事大漢字漢文原理主義<sup>27</sup>である親明派の党争が軸となっているが、明は現在の韓国にとっての中国とアメリカを併せた存在として現れる。明の勅使は「女を宮中の宴に立たせるのは、下品な劣国の習性ですかね。山海珍味とそれに合う酒まで… 皇帝は蒙古出兵のため硬い寝床と粗食に耐えています。それなのに臣下国の王は、酒池肉林に溺れているとは…」と皮肉った上で「皇帝は日本への出兵を考えておられる。これは朝鮮の平和に役立つ。朝鮮には軍馬一万頭を支援して頂きたい」と要求し、「余力があれば一万でも二万でも」と渋る太祖を「宴は開けても国を守る国庫はない。政務の基本すらわからぬ者を王とは呼べない」と批判する場面は、中国やアメリカが韓国を下位の国であると侮辱し、圧力をかけ利を得ようとする様子と重ねられている。

太宗は宗主国に服従し、どのような扱いも受け流し、対立を回避しようとする中高年の世代を体現している。それに対して世子は若い世代を表し、現在のアメリカによる安全保

<sup>25</sup> 南富鎮「ル・ボンの民族心理学の東アジアへの受容—李光洙・夏目漱石・魯迅—を中心に」於静岡大学翻訳文化研究会報告、2014年1月30日。

<sup>26</sup> 蘆泰敦（橋本繁訳）『古代朝鮮 三国統一戦争史』岩波書店、2012年、12頁によると、新羅の三韓統一は、『読史新論』（1908）において民族的道徳に立脚した善悪の次元から以下のように猛烈に批判されている。「異種を呼び込んで同種を滅ぼすことは、盗賊を引き入れて兄弟を殺すことと同じ」行為である。唐と同盟して戦争を遂行したことは、外国勢力と結託した反民族的なものであり、事大主義の毒素を植え付けた」。

<sup>27</sup> 野間秀樹『ハンゲルの誕生』平凡社、2010年。

障に対してと同様、抵抗しようとする。勅使に対し「軍馬一万どころか、一頭も渡せん。そなたは朝鮮を何と心得る。自分の国も守れぬ腰抜けとでも思うか」と反駁する。勅使は「つまりは朝鮮の安全がどうでもいいと？ 朝鮮が力を持っていたとは」と一人前の主権国家ではないとして嘲る。世子は「お前を殺し、明に送りつけてやる。朝鮮を侮辱するのはたとえ皇帝でも許しはせん」と命より名誉が大切であると主張するが、勅使は「私は劣国の臣下になったおぼえはない。世子の勇ましさは覚えておこう。しかしその稚拙さが朝鮮に屈辱をもたらすだろう」と激怒し、十万すなわち朝鮮全軍を差し出せと要求する。ここには自国の名誉を何よりも重んじたいと思いながらも、現代的な正論や理想論を述べれば痛い目に遭う、現実の対外関係に即した葛藤が描かれており、善意と感情論で進められる昨今の日本のドラマと大いに異なる。

太宗は「いっそ戦ってみるか。北方と明を抑え中原の民を従えるのだ。勝てるといえ、明を討てると。この国の世子はまともだといってみろ」と呟くが、それに対し後の世宗は、義と無謀で割れる意見を調整する。「王の屈辱とは民を守れないことです。戦になります。無理だとは考えずぶつかっていくのが正しいのですか。太平館<sup>28</sup>を怒らせるとは。出兵したいのならまず現実を見て下さい。相手がどれ程強大か。領土の大きさ、民の数、すべて明国に劣る朝鮮がどうやれば勝てるのか、興奮せずに冷静に判断し、方法を探すのです」と説得し、勅使が好意的に動いてくれるよう根回しをし、朝鮮王室に侮蔑を与えたことを認めさせ、無理な朝貢と派兵を撤回させるべく、現実的な外交をしようとする。同時に明との共通の敵は日本であるとし、他に目を向けさせる。

この三様の意見の中で、世子は感情で政治を語り国事を乱し、愚かな民を煽った不適格者であるとされ、軍馬 500 頭で妥結させた世宗は交渉の功労者となる。「顔をうかがうことが外交ですか、恐れてはなりません。国防のために税を払わない民を助ける必要はない」と憤る世子に太宗は「自尊心を優先するものが強者ではない」とし、冷静な判断なくしてはどれほど国の自立を望んでも幻想のままでいるとする世宗は、現実的に政情を判断する姿勢を提示する。

文官チョ・マルセンは、明との安保を推進するが、この場合の明はアメリカを指す。技術開発をめぐる議論のくだりて天文儀器について独自の道を探る際の配慮は、今日の宇宙開発をなぞらえられている。韓国によるロケット衛星の平和利用は認めるが、開発は認めないとする中国とアメリカの介入と重ねられている。『大王世宗』は、史実としては当てはまらないことが多く、むしろ今日的な韓国の立場から、中道リベラルの政治観を発信しているドラマであるといえる。

また大国中国に甘く見られているという意識について、『商道』<sup>29</sup>では、清国商人が傲慢な態度で朝鮮人参を買い叩き、価値を下げる。それに対し林尚沃は朝鮮人参を焼いて、200両でなければ売らないとし、正当な価値をようやく認めさせる。明の後妃である『大王世

<sup>28</sup> 明の使節の宿舎。

<sup>29</sup> 상도, MBC, 2001-2002.

宗』のハン・ダヨンや『インス大妃』<sup>30</sup>の韓氏の叔母たちが、朝鮮出身だと侮られ、殉葬させられる惨めさを悔しがらる。

しかし最近ではナショナリズムの変化がみられる。韓氏は、明の王室、永楽帝に連なる際立った名家として、『王と妃』<sup>31</sup>や『韓明澮 ～朝鮮王朝を導いた天才策士～』<sup>32</sup>では、明との外交に欠かすことのできない重要人物として描かれたが、『インス大妃』では、韓氏の父は、姉や叔母を明に売った卑しい人間であり、首陽大君は、明に頭を下げ、許しを請わなければならないため、王族が引き受けることはありえない謝恩使になり逃げたと嘲笑される。『王になった男』<sup>33</sup>では、主人公は、尊明事大で「明の戦争に朝鮮から 2 万人もの民を派兵」する意見を糾弾し、去就は状況によって決めるとした光海君の実像と絡めつつ、格差をなくし富裕層に面積に比例した課税をする、格差是正の大同法を実施し、国や時代を越えた真のリーダー像<sup>34</sup>として支持されている。そこには、大国として経済力を高めている近年の中国への警戒心が表れているといえよう。近年の時代劇では、親中派の主人公はまず登場しない。

#### b) モンゴル

朝鮮は、東アジアの外交関係の一つの特徴である事大外交をとってきたが、それは文化の先進国である中国に尊敬を表すもので、「文化水準の遅れた」蒙古、女真、日本には自尊心を打ち出した<sup>35</sup>。その中でもとりわけ蒙古は一貫して、高貴な朝鮮人と対比的に野蛮そのものと描かれている。『武人時代』<sup>36</sup>では、李成桂が女真族であることは影をひそめ、李義方の六世孫であることが強調されている。

『武神』は、高麗が元の属国になっていく時代について扱っているが、それは引き分けであるとして、負けたとは認めず、井上靖<sup>37</sup>とは解釈が大きく異なる。元に対してはどのドラマでも一様に侮蔑的に扱い、『武神』でも「蒙古は人間というより獣に近い奴らです」「使節どころか山賊である」と述べ、礼儀のない蛮族の典型となっている。撒里塔は高麗の勇気と高潔さを称え、元に寝返った高麗の将軍洪福源は終始卑劣な人間として描かれる。『大王世宗』において、朴正熙政権以前への復古を望む保守派を表象する高麗復興勢力は、蒙古の支援を模索するが、高麗復興は蒙古の支配と引換であり、「高麗が元に捧げた忠誠心を忘れるな」と釘を刺される。これに対し若い世代は「なぜ蒙古と手を組むのです？彼らの

<sup>30</sup> 인수대비, JTBC, 2011-2012.

<sup>31</sup> 왕과 비, KBS, 1998-2000.

<sup>32</sup> 한명회, KBS, 1994.

<sup>33</sup> 광해, 왕이 된 남자, 2012. 1234 万人を動員した国民的大ヒットで 2012 年の大鐘賞では史上最多となる主要 15 部門を受賞した

<sup>34</sup> 韓国内で大学教授・実業家で大統領選出馬を断念した安哲秀や、故・盧武鉉元大統領と重ねる声相次いだ。

<sup>35</sup> 李成茂 (金容権訳) 『朝鮮王朝史 (上)』日本評論社、2006 年、26 頁。

<sup>36</sup> 무인시대, KBS, 2003-2004.

<sup>37</sup> 井上靖 『風濤』講談社、1963 年。

望みは忠誠です。忠誠、忠烈、忠義<sup>38</sup>、犬のようにこき使うつもりです」と反対する。これに対し、「力のない我々には以夷制夷が最善策だ」とし、「朝鮮の犬から元の犬になれと？」とここでも若い世代は反論する。

### c) 日本

モンゴルが野蛮なら、日本人は中国の大国であることからくる傲慢さと異なり狡猾で卑怯であり、現代劇の『どれだけ好きなの』<sup>39</sup>でも、莞島の協商でひじきを買いたたく日本企業の誠意のない対応への憤りが描かれる。また、倭人、倭敵、倭国、倭王、倭船と現代史を扱う時代劇に至っても倭の字が多用されている。『広開土太王』において鎧兜姿で登場する倭人は、同じ血を分けた同族ではなく、倭は攻めるべき悪しき国であり、無能な蘇我天を壊滅させなければならないとされる。『大王世宗』では、日本は侵略してくるものであり、そして文化的に優位にある朝鮮から、火薬などの進んだ技術を奪うためにありとあらゆる汚い手を使う。対馬の宗貞盛も悪人でありながら、朝鮮に感銘を受けるという描かれ方をしている。このような日本に対する知識や技術の供給者としての朝鮮像はしばしばみられ、『広開土太王』では、高句麗から独立した百済は、海を越え日本の基礎となり、邪馬台国から貢納を受けたと説明され、『大王の夢』では、中大兄皇子は大化の改新に際し、膝を屈して金春秋に教えを乞うている。また同じ剣舞でも百済では、先進文化の一部として描かれるのに、倭で供されると遅れた文化だと差をつける。『明成皇后』での日本との外交は、高い文化を蛮族に伝授することと定義されている。交易相手としての日本は『海神』『百済の王クンチョゴワン』<sup>40</sup>で顕著である

しかし、このような散見される表象とは異なり、内容に関わる場面において、韓国の映像文化は中立的である。『明成皇后』の内容は必ずしも反日ではなく、大院君は「儒生と両班と王室に寄生したがる者たちの中で民のために命がけで尽力する者が何人いるか。日本の武士は税から禄をはむ代わりに命がけで民を守る」と日本から学ぶ姿勢を見せる。『マイウェイ 12,000キロの真実』<sup>41</sup>は、植民地時代が背景となっているが、間接的に扱われている。同様に植民地時代を扱う『グッド・バッド・ウィアード』<sup>42</sup>においても日本の軍人が出てくるが、そこに出てくる朝鮮人は自嘲的である。また日本が対立構造の主軸となっているわけではない。『自由人 イ・フェヨン』<sup>43</sup>や『名家の娘ソヒ』<sup>44</sup>は、植民地時代を扱っているが、日本人にも朝鮮人にもいい人もいれば悪い人もいるとし、公平である。現代劇の

<sup>38</sup> 元に降伏した高麗王元宗には忠という諡号を与えられ、以下忠烈、忠宣、忠肅、忠恵、忠穆、忠定王が続き、これらの名は『武神』『辛旽 高麗中興の功臣』(신돈, MBC, 2005)で皮肉られている。

<sup>39</sup> 얼마나 좋길래, MBC, 2006.

<sup>40</sup> 근초고왕, KBS, 2011.

<sup>41</sup> 마이웨이, 2001.

<sup>42</sup> 좋은 놈, 나쁜 놈, 이상한 놈, 2008.

<sup>43</sup> 자유인 이회영, KBS, 2010.

<sup>44</sup> 토지, SBS, 2004.

『レディプレジデント』では、夫が武装グループに拉致され、日本人の人質は無事に帰国できたのに夫は殺されてしまい、日本と比較し、韓国を不甲斐なく思う。現代史以降においてはいち早く国際化した日本に一目置き、内省的である。

#### d) アメリカ

古い日本の映画には横柄なアメリカ人がしばしば出てくるが、今日の映画において、アメリカは既に日本の上位にはいない。しかし、韓国ではまだ生々しくアメリカ人は傲慢なものとして描かれる。アメリカ軍を北と南が力を合わせて撃退する『トンマッソルへようこそ』<sup>45</sup>や『ロードナンバーワン』<sup>46</sup>においてアメリカ人は同盟国でありながら傲慢であるとして、好意的には描かれず、韓国を理解していないずれた存在とされている。『武神』でアメリカを表す大国元により一万名の兵、一万名の兵が食べる兵糧、日本を攻める三千石の兵糧が乗る軍艦一千隻が要求された際、金俊は「他国の戦争に行くのか？ 蒙古人の代わりに他国と戦えというのか」と憤る。『大王世宗』において明への軍馬一万頭支援と世子人質をのもうとする太宗に対し、誇りを貫こうとする世子の姿は、韓国になにも利のないヴェトナム出兵やレイプ事件の泣き寝入りといったアメリカとの関係についての世論とも重なる。また『大王の夢』に出てくる、羅唐同盟における統帥権をめぐる傲慢な蘇定方と金庾信の熾烈な衝突は、昨今のアメリカと韓国の対北朝鮮の指揮権移管延期問題における大きな衝突と重なる。

『ファントム』<sup>47</sup>に出てくるチェルノブイリウィルスは、コンピューターのデータを消し脳死させ、30万台のパソコンに影響を与えるもので、作中ではデハン電力への原子力発電所大爆発テロとして登場する。これはアメリカが、実際イランに対して行ったサイバーテロで原子力発電所の電源を落としたものを下敷きにしてあるが、無慈悲なアメリカへの不信感を表している。

### 3. 分断国家

#### a) 統一されているべき朝鮮

南北分断もまた、欠かせないテーマである。『ブラザーフッド』<sup>48</sup>のような、内戦を表す兄弟殺しや生き別れは、現実の痛みとしてドラマの中でも顕著に取り上げられる。『王女の男』<sup>49</sup>においては、咸吉道は側近の一人の故郷であり、身近の誰かしらが必ず関わりを持つものである。『大王世宗』での高麗王朝復興勢力は「わずか20年ほど前（朝鮮戦争停戦と重なる）に高麗（北を中心とした地域、北朝鮮）を滅ぼし朝鮮に変えた」と憤り、海に沈

<sup>45</sup> 웰컴 투 동막골, 2005.

<sup>46</sup> 로드 넘버원, MBC, 2010.

<sup>47</sup> 유령, SBS, 2012.

<sup>48</sup> 태극기 휘날리며, 2004.

<sup>49</sup> 공주의 남자, KBS, 2011.

められた家族を思い、仲間のことを同志と呼び、革命を訴え、格差社会を批判していることから、社会主義革命家とも重なる。

『ロードナンバーワン』においてヒロインのソヨンは「両方にとってのオモニだ」とされ、南北双方にとっての祖国、すなわち朝鮮半島全体を象徴している。ソヨンら三兄弟の複雑な関係は、内戦を兄弟殺しとする隠喩と重なる。様々な矛盾を兄が表象し、ジャンウに対する「人民は平等でもお前は使用人だ」という台詞にそれが凝縮されている。ジャンウは低い身分から上がってきた者が北を倒す矛盾を表し、その中で兄と妹が死ぬ。「ソヨンは死んだんだ、現実を見ろ」という終盤のセリフは、統一が夢に終わったことを表す。ラストではソヨンとジャンウは生きて会うことはないものの、平壤から持ってきた種が蒔かれ、会いたいと願い続けていれば叶うと未来に統一を託される。

朝鮮半島はひとつであるべきだという主張も共通している。豪族との対立を背景に領土的統一を目指す三韓統一をキーワードにしているドラマは、「徳業日新、網羅四方」を目指す『善徳女王』<sup>50</sup>『大王の夢』『百済の王 クンチョゴワン』『光宗大王 ～帝国の朝～』など非常に多い。「王権を中心に統一されている」のがあるべき理想像とされており、全ては分断国家の現況に結びつく。

『広開土太王』では、後燕は北朝鮮を表している。大親友だったが誤解により敵味方に分かれていた高雲の後燕王の戴冠に際し談徳は「お前は余の下に戻るのだ」「偉大な高句麗人の魂を持つ高句麗人だ」「元の名に戻って後燕の皇帝となり民のために善政を行うのだ」と言うがそれはすなわち、北朝鮮は中国の影響から出て統一されるべきであるという主張である。また談徳は、「百済は従わせるべき仲間で、後燕（慕容宝までは中国を表す）は決して同じ天を抱けぬ仇敵であり、征服せねばならない相手である。言葉に風俗、歴史何一つ我と同じものはない。中原に侵攻する妨げとなり、必ず打ち破らなければならない」相手であるとし、手を携えなければならない朝鮮半島と外敵の線引きをしている。また、朱蒙から王室に受け継がれた黄金を溶かして作らせた三足杯を新羅と百済に贈り、その理由として「同じ言葉を使い、生活習慣も似ていて、同じ祖先をもつ同族。我々は一つの木から分かれた枝である。我々は敵として対立すべきではない。力を合わせて中原に進出することが同じ血を受け継ぐ者の使命だと余は考える。我々が反目しあえば、行きつく先は破滅で、手を組めば中原進出の道が開ける。広大な大陸に我々の勢力を広げ、余が征服した大陸の多くの資源を新羅と百済と分かち合いたいと思っている。我々が力を一つにすれば三国の力で中原を揺るがすことができる」とし、一丸となって中国の圧力に立ち向かうべく説得を試みる。

『太祖王健』では、外勢に頼らず自主的に統一を果たした自尊心、そして朝鮮でも大韓でもなく、コリアとして世界的に知られるようになった国名高麗を定めたことが強く意識されている。弓裔が、新羅や後百済と異なり、外国に頼らず自主統一による北伐の夢を見続けていたことは、摩震、泰封の国名から推測できる。「極楽に至る道はただ一つ。北へ行

<sup>50</sup> 선덕여왕, 2009.

けば救われる。中原を弥勒の領土にするのだ」という意見に対し、ソクチョンは「北に目を向ける前に死にゆく民と国を救え」と意見し、口に鉄槌を振り落とされる。弓裔は果てしない大陸に広がる帝国を夢見、家臣は狭い三韓の中だけで争うと嘆く。弓裔の宿願であるとされる統一は、常に目指されるが、手に入らないものである。朝鮮戦争での中国の介入は記憶に新しく、領域の安定とコントロールは通時代的な悲願としてドラマの中で現れる。

また人間関係でも対立したままにはせず、協調し必ず味方にとりこもうとする姿勢がしばしばみられる。『イ・サン』<sup>51</sup>では、李祘とチャン・テウが、『善徳女王』では徳曼と美室が<sup>52</sup>、『広開土太王』では、高句麗と百済や高雲、現代劇『プレジデント』<sup>53</sup>では主人公が囲碁の和局を引用しつつ、兄の仇やかつての敵と協調をはかろうとし、いずれも対立する者が宿敵のままでは終わらず、一つになるべく模索する。

## b) 距離感

統一されているべき朝鮮という主張が頻出する一方で、北朝鮮に対する韓国側の距離感もみられる。金剛山はしばしば王の周遊先として登場するが、『キム・マンドク 美しき伝説の商人』<sup>54</sup>で、金萬徳が凶作と飢饉からの民衆救済を労う王からの褒美を尋ねられ「金剛山に行きたい」と答え、そこに向うにあたり「自由な心を持たなければならない」と締めくくる。金剛山には余程のことがなければ行けず、また行くには偏見にとらわれない心構えが必要であるとする。

また現代の北朝鮮表象には、外国としての他者像がみられる。『ラブ・ミッション』で北のスパイは、現代韓国語ではもう使われない上称型を用い、韓流スターと結婚するミッションの手ほどきには、かなり時代遅れな映画を資料に用いる。また北朝鮮の国旗を思わせる星柄のブラウスなどをしばしば着ている。『ロードナンバーワン』のインスクのように北の人間は貧しそうで栄養失調的な俳優が演じる。『トンマッコルへようこそ』でも北の兵士は真面目で頑なそうな演技が目立つ。

個人の意思がない人間兵器としての北朝鮮人像も顕著である。『ラブ・ミッション』では、「祖国と同志の命が大事だ」とするミョンウォルに、カンウは「人間兵器として生きていくのか」と問いかける。嘘を重ねてきたミョンウォルとお互い銃を向け合う際、「一緒に過ごした時間は嘘ではなく、本当に幸せだった」、「許すといったら全て許す。一緒に生きよう」とカンウが歩み寄るが「個人の望みと異なっても祖国が決めること。私たちには障害が多すぎる。生きてきた環境も考え方も違う」とミョンウォルは返す。しかしカンウ

<sup>51</sup> 이산, MBC, 2007-2008.

<sup>52</sup> 山下英愛『私たちの韓流 - 韓国ドラマを読み解く』岩波書店、2013年、207-208頁。徳曼と美室の議論は、韓国現代史のリーダーたちや政党の政策論争を反映した「真の民主主義の姿」とされている。

<sup>53</sup> KBS, 2010.

<sup>54</sup> 거상 김만덕, KBS, 2010.

は「愛すれば北も南も関係ない。結婚して一緒に暮らそう。人々の暮らしをみる。人間兵器として人を殺すのではなく、スポーツを楽しみ、人生を楽しんで生きたくないか？ここで新しく始めよう」と呼びかけ続ける。最終的にミョンウォルは「ここまでくるのに長い時間がかかったけど、もう離れない」と応え、統一を示唆し、ドラマは終わる。金正日政権下外国への開放政策に向かっていくかに見えた時期に制作された同ドラマには、開城工業団地の南北共同開発を連想させるシーンがある。はからずも北のスパイであるチュと韓国の財閥チュ会長と協力して手に入れた四合書のコード化された地図を、チュが NSA に渡し、「(韓国) 政府は今日、レア・アース<sup>55</sup>を北朝鮮と発掘すると発表。今回の共同発掘により南北関係が回復するとみて、与野党及び市民団体も歓迎している」とニュースが流れる。金正恩の下、開城工業団地から完全撤退し、開放路線の張成沢が粛清された昨今、これはまだ遠いおとぎ話にすぎない。

『ラブ・ミッション』でオクスン女史の平壤冷麺の店が繁盛したように、冷麺もトピックスの一つである。現代劇『天上の楽園』<sup>56</sup>では、冷麺を上手に食べさせることのできる延辺から来たと語るミョンオクに、「朝鮮族だったのね」と韓国女性に揶揄する。「朝鮮時代でもないのにおかしいでしょう。中国人が韓国人を見下す言い方で、昔の日本人が「朝鮮人」と呼んだのと同じです」とミョンオクはやり返すが、差別は続く。ミョンオクはナムギルのプロポーズを「何か起これば真っ先に疑われる。延辺出身といえど就職ができる」から嘘をついていたと、北の出身であることを理由に断るが、ナムギルは「生まれは選べない」、大したことはないからと結婚しようとする。しかしナムギルの母は「あっちの女はだめだ」「違う延辺から来た」「同じことだろう。ナムギルを人質にとっている。今すぐ1000万ウォン振り込めという詐欺の電話がかかってくる。家の権利書を持って逃げるに違いない。朝鮮族はだめだ」と激しく反対する。また結婚後、本当は咸鏡道の会寧から凍った豆満江を殺鼠剤のカプセルを口に含みながら這って来た脱北者であったことがわかり、最終的に理解し合うものの激怒する。また北には妹がおり、妹が河を這ってではなく、人間らしく来させたいと、ここでも生き別れの妹について語るがドラマ中で南に来ることはない。チョン・ブシクも結婚式の最中徴兵され、自分のせいで危険に晒された兄が北朝鮮にいて行方を捜し、嫂は以来ずっと結婚衣装を持ったまま待ち続けているが、帰ってはこない。

『大王世宗』では、北方と一つになることについて大きな懸念が示されている。毛皮をまとい容易く人を皆殺しにする野蛮な集団として描かれる女真族は北朝鮮を表しており、「非武装の」女真族、すなわち非武装の北朝鮮民衆を攻撃するかどうかめぐり、議論が二つに分かれる。世宗は保護することを主張し帰化を進めようとするが、臣下はそれを認

<sup>55</sup> 希土類で、ランタン系の15元素を含む17元素の総称。電気製品、発電、兵器などハイテク産業には欠かせず、各国が血眼になって探している希少金属で、今後これを制する者が世界を制することができ、その発掘権を独占すれば世界の経済を掌握できる「宝」であると作中で設定されている。

<sup>56</sup> 천상의 화원-곰배령, 2011.

めない。朝鮮が越境した裏切り者を保護すれば亡命者が続出する。また女真族の「民間人」という当時としてはありえない表現を用い、国境を越え保護を求める女真族が既に 100 人を超えているという現状に対して、世宗は「では交隣政策に基づき保護しよう。それが上国としての義務だ」とする。それに対する「3~4歳で馬術を習得、10歳には男も女も戦士になるのが女真族だ」「民間人でない場合は？ 女真族の民間人と兵士をたやすく区別できるか？」という批判は、北朝鮮の全国民が戦闘員であるとする人間兵器像と重なる。「(女真族は)民間人を装わせ国境に放ちます。昨今のように帰化を装い、帰化を望む者の中に間者がいる可能性は高い。女真族と戦になれば帰化した民が間者に煽動され敵に寝返る可能性がある。朝鮮軍は苦しい戦いを強いられる」という台詞は韓国における脱北者を意識している。これに対し世宗は「彼らを教化し朝鮮の民とする」と述べたが、「女真族は朝鮮の民になどなれず、それは行き過ぎた理想論だ」と平行線となる。また予算面から「北三道に女真族まで養う余裕がどこにある？」と財源のなさも批判される。汚職で富を蓄えた兵判から接収するなど、格差批判からの案が出るが、何の解決もみられない。また明には、遼東半島侵略のための布石だと勘違いされ、中国との揉め事の種となり、関わりとろくなことがないと言われる。

『月も星もあなたに』<sup>57</sup>では、長い間生き別れていた兄に対し、「何十年も離れていて、何もかも異なるのに今さら一緒に住めるか、少しいたらすぐに出ていってくれ」と一番若い世代である三男が拒絶し、最終的に別々の家に住む。『約束の恋人』<sup>58</sup>では、領土の安全を侵害する北は敵であるという意見が多勢である。『ベルリンファイル』<sup>59</sup>では、韓国情報院のエージェントと北朝鮮諜報員の間で、南北は別々の国として表れ、統一は念頭にない。このように財政的な統一の困難と、心情的に開いた距離も顕著となってきている。

#### 4. 党争

漢江はどちらに流れているかわからないといわれ、二つの力が引っ張り合う象徴とされている。朝鮮半島は国土が狭小な上に、傾斜度五度以下の平坦地は全土の 20%弱であり、山岳的特質から農業にはそれほど適さない土地柄で生産量が低い。そのため国内での富の奪い合いが激しく、党争が繰り返された。設定自体に無理のあるフュージョンでも、『イミョン王妃の男』<sup>60</sup>、『屋根部屋のプリンス』<sup>61</sup>など背景には党争がある。

<sup>57</sup> 별도 달도 따줄게, KBS, 2012.

<sup>58</sup> 한반도, TV 朝鮮, 2012.

<sup>59</sup> Bereurlin, 2013.

<sup>60</sup> 인현왕후의 남자, tvN, 2012.

<sup>61</sup> 옥탑방 왕세자, SBS, 2012.

ドラマの中の党争関連年表<sup>62</sup>

時期	ドラマ上の事件	ドラマ上の内容	関連ドラマ
640年代初～676年	三国統一戦争	対唐依存派対自立派	『朱蒙』『風の国』『幻の王女チャミョンゴ』『鉄の王キム・スロ』『薯童謠』『淵蓋蘇文』『善徳女王』『大王の夢』『階伯』
956年	奴婢按檢法科挙制度開始	中央集権対豪族 主戦派対穩健派	『光宗大王』
981-1029年頃	割地論	西京以北の旧高句麗領を契丹に譲渡する親宋対自立派	『千秋王后』
1170年	庚寅の乱	李義方・鄭仲夫ら武臣が多数の文臣を殺害し、毅宗の弟である明宗を擁立	『武人時代』
1231-1271年	元の高麗侵略	対蒙融和派と自立派	『武神』『辛旽』
1338年	第一次・第二次王子の乱	李芳遠らが改革派重臣を殺害する事件	『龍の涙』『大王世宗』
1443年頃	反正音上疏文	対明依存派対自立派	『大王世宗』『根の深い木』
1453年	癸酉靖難	首陽大君が、皇甫仁、金宗瑞らの顧命大臣を殺害して政権を奪取した事件。	『王女の男』『王と妃』『インス大妃』『韓明澮～朝鮮王朝を導いた天才策士～』
1455年	端宗復位運動死六臣事件	世祖の王位奪奪への反発	『王と妃』『死六臣』
14671年	李施愛の乱	咸吉道で起きた朝鮮前期最大の反乱。中央集権推進対する地方の根強い不満と不信感。	『王と妃』
1498年	戊午士禍	勲旧派による士林派の大規模な粛清、弾圧。	『王妃 チャン・ノクスー宮廷の陰謀』『王と妃』『インス大妃』『王と私』
1504年	甲子士禍	燕山君が母親の死に関連したとされる臣下を勲旧派、士林派の区別なく処刑・粛清。外戚の宮中勢力と議政府よりの府中勢力の衝突。	『王妃 チャン・ノクスー宮廷の陰謀』『王と妃』『インス大妃』『王と私』『宮廷女官チャングムの誓い』
1506年	中宗反正	宮廷クーデターによって絶対王権を実現しようとした燕山君を廢位し、18歳の晋城大君を擁立	『宮廷女官チャングムの誓い』
1519年	己卯士禍	暴君と反正巧臣に対する改革に反発した勲旧派による士林派の大々的な粛清。	『王朝の暁-趙光祖』『ファン・ジニ』
1545年	乙巳士禍	文定王後の垂簾聽政への反対派の大々的な粛清。大尹一派追放。外戚対外戚の対立。	『女人天下』
16世紀末	壬申倭乱・丁酉倭乱	士林派の西人派と東人派への分裂。さらに東人派が穩健派の南人派と強硬派の北人派に分裂	『不滅の李舜臣』
1623年	仁祖反正	廢母殺弟、明を捨てオランケと交流する大北政権の政策批判、親明排金政策。尊明事大を掲げた光海君の廢位と仁祖の擁立	『ホジュン』『王になった男』『王の女』『ホ・ギョク』『ミヘギョル』『イルジメ』『快刀ホン・ギルドン』
1636年-37年	丙子胡乱	昭顯世子の反清派による毒殺	『推奴』『馬医』
1680年	庚申換局	南人政権が崩壊し、西人が政権を掌握	『妖婦 張禧嬪』『トンイ』
1689年	己巳換局	西人が提起した元子問題を口実に西人を失脚させる一方、南人を再び重用	『妖婦 張禧嬪』『トンイ』
1694年	甲戌換局	南人を朝廷より追放して西人を政権に。王妃張氏を嬪に降格、仁顯王后を王妃に復位	『イミョン王妃の男』『トンイ』
1721-1722年	辛壬士禍	景宗暗殺嫌疑による少論の老論肅清事件	『妖婦 張禧嬪』『トンイ』
1762年	壬午士禍	思悼世子の餓死事件。僻派と時派、老論と少論の派閥争い	『イ・サン』『大王の道』『洪国栄』『ベク・ドンス』『風の絵師』『トキメキ☆成均館スキャンダル』『キム・マンドク』
1866年	丙寅の洋擾	アメリカの海賊船シャーマン号を座礁させ、焼き払う。鎖国派對開国派	『明成皇后』
1871年	辛未の洋擾	フランス東洋艦隊の撃退	『明成皇后』
1882年	壬午事変	開化派による守旧派への反乱。親清派對開国派	『明成皇后』
1884年	甲申政変	金玉均ら開化派の粛清	『明成皇后』
1894年	甲午農民戦争	東学党の乱。反封建、反侵略の自覚的な闘い。	『名家の娘ソヒ』『済衆院』
1895～6年	義兵闘争	閔妃虐殺事件の「国母報讐」をスローガンに金弘集政権の打倒を目指す。	『韓半島』
1910年	日韓併合	民族系感情的理想論者対日本の資金導入依存派	『黄金時代』『マイウエイ』『ロスト・メモリーズ』
1950-1953年	朝鮮戦争	38度線での分割占領案による南北分断	『ロードナンバーワン』『トンマッコルへようこそ』『ブラザーフッド』

a) 士禍・換局

その背景は、君弱臣強にあり、例えば李成桂の開国君臣の褒賞は莫大なものであった<sup>63</sup>。

<sup>62</sup> 蘆泰敦（橋本繁訳）『古代朝鮮 三国統一戦争史』岩波書店、2012年、李成茂、前掲書、梶村秀樹『朝鮮史 その発展』明石書店、2007年を参照に作成。

<sup>63</sup> 李成茂、前掲書、89頁。一等功臣には1万50結の土地（1結は一等地2753坪）また、

財力、儒教への造詣が国王よりも勝る臣下は、士大夫から勲臣、士林、蕩平、勢道と移り変わる中で朋党に分かれ争った。『不滅の李舜臣』<sup>64</sup>も、国威高揚のドラマかと思えば、中国や日本が敵として奇矯に描かれているにせよ、主眼は内部分裂により外部からの侵攻を容易く招いたことへの内省にある。『大祚榮』でも東南アジアに君臨した高句麗の滅亡は、文武官そして唐への対応の穏健派と強硬派の党争による、身から出た錆だとされている。

『韓半島』<sup>65</sup>は、近未来を舞台とした反日映画とされているが、側近による大統領の毒殺と内官による高宗の毒殺とを重ね合わせ、実際には国内の党争が軸となっている。この構図は『武神』の崔瑀と金俊が表す韓国人の誇りを守るためには強硬策もやむなしとする姿勢に対する、金若先が表すプライドのために民を苦しめることへの疑問と蒙古への恭順による実利獲得重視の姿勢の対立と通ずるものがあり、反日が主たる目的ではない。また右派が日本に求めるものは、高宗の印璽が別にあるので、以降の歴史は無効であるとする、領土ではなく歴史解釈の修正である。このように事大主義か強硬派かの争いは通時代的であり、ドラマの軸となっている。

党争の背景にはそれぞれが基盤としている地域格差も存在する。朴槿恵大統領選の際の地域による得票数の差異は記憶に新しいが、それは『プレジデント』でも顕著である。ソウル圏のラインの地域が軍事体制下で優遇され、それ以外の地域が差別されているといわれているが、『砂時計』<sup>66</sup>では光州差別、『哀しき獣』<sup>67</sup>では中国における朝鮮族差別が生々しく描かれている。『太祖王建』では、洎西人の優勢に対して、阿志泰が束ねる清州人が強引にとって代わろうとする。また羅州、忠州、清州など地域間の争いが正胤問題として表出する。また『広開土太王』や『太王四神記』では、消奴部と桂婁部の対立が悲劇を生んでいる。『危険な相見礼』<sup>68</sup>のように全羅道と慶尚道の地域差を笑いに変える作品も最近ではみられるが、地域差による葛藤はデリケートなテーマであり続けている。

## b) 格差社会

内紛の背景には、格差が横たわっている。国を二分する争いは、成長か民への福利かにも集約される。『光宗大王』では、民や公共善が意識され、民によって与えられた王権なので民の望むことしなければならないとし、豪族が抑えられ、奴婢按檢法が施行されるが、それはそのまま今日の非正規雇用問題と重なる。また光宗は王式簾の西京の民に犠牲を強いての対契丹対策の都建設に憤激する。『広開土太王』では、百済の王が民を考慮しない王宮工事で国の財が尽き、民心が離れたことが教訓として取り上げられている。『大王世宗』で、世子は無謀な制圧論を主張し、そのためなら民はどうなってもいいとするのに対し、

---

六等地は1万1035坪与えられた。

<sup>64</sup> 불멸의 이순신, KBS, 2004-2005.

<sup>65</sup> 한반도, 2006.

<sup>66</sup> 모래시계, SBS, 1995.

<sup>67</sup> 황해, 2010.

<sup>68</sup> 위험한 상견례, 2011.

世宗は理想論を掲げ、全ての民を包容するのだと相反する。『レディプレジデント』でも、ソ・ヘリムは政財界の黒幕のみが利を得る大企業による南海道での公共工事をみて政治家を志すが、FTAによる未来の利益か割を食う現在の民衆の苦しみかと同様、国家利益と個々人の幸せとの間で揺れ動く。民心や民の声の重要性はどのドラマでも頻繁に繰り返されており、『武人時代』のトゥドゥウルのように、李義政が守り神にしていた木の像そして人の姿として現れる場合もあるが、結局は惨殺される。民心の重要性が繰り返し主張されるのは、それだけ民意が届かないものだと認識されているからではないだろうか。『善徳女王』『イ・サン』などでの、庶民の中で学び、既存の枠を超え多方面から人材を抜擢し、敵陣の人材までも登用する懐の深さ、民をいたわる主人公の姿勢は、格差が開く一方の現代の韓国社会でまさに求められているリーダー像であろう<sup>69</sup>。

### c) 貴種流離譚

優れた主君になるためには、民の声を聞かなければならないというのが歴史ドラマの王道で、李祘、大祚榮、淵蓋蘇文、談徳、善徳女王、許煙雨<sup>70</sup>、薯童<sup>71</sup>は、平民、奴婢、巫女にされたり放逐されたりして民の生活を学ぶが、最終的には元の身分を取り戻す。賤民である同伊<sup>72</sup>にしても英祖の母であり、一介の庶民の娘がヒロインになることはない。チャングムは白丁ではなく実は武官と女官の娘であり、『馬医』の白光炫も一見努力で身分制を乗り越えていく話のようであるが、出生に秘密のある両班の一人息子が、父親譲りの天賦の才により、最下層である馬医から元の地位に戻っていく物語である。『武人時代』の李義政は、史実では寺婢の子とされているが、ドラマでは実は安南国の王族の末裔であるとされ、新羅王族の末裔であるプヨンを側室に迎える。彼は新羅の黄龍であるされ、「龍孫十二盡十八子為王」（高麗王室は12代で終わり、李氏が王となる易姓革命）と予言され、高貴な者へと変換されている。

主人公やヒロインの相手役も高貴であることが必須で、『善徳女王』の相手役である毗曇には美室と真智王の息子という出生の秘密がある。『海神』では、商人の娘チェリョンは貴族の娘チョンファに負け、『ホジュン 宮廷医官への道』<sup>73</sup>で、中人で孤児の叡眞は、司憲府大司憲の娘多喜に負ける。母の身分が低い黄真伊<sup>74</sup>は悲恋に終わり、身分違いの恋を「策を弄して」成就させようとする張緑水<sup>75</sup>や張禧嬪<sup>76</sup>は悪女とされる。

奴婢上がりの張保臯や金俊が惨殺されて終わる一方、貴種流離譚であれば天寿を全うで

<sup>69</sup> キム・ヨンヒ（クオン・ヨンス訳）『善徳女王の真実』キネマ旬報社、2012年、246頁。

<sup>70</sup> 『太陽を抱く月』（해를 품은 달, MBC, 2012)

<sup>71</sup> 『薯童謡』（서동요, SBS, 2005-2006)

<sup>72</sup> 『トンイ』（동이, MBC, 2010)

<sup>73</sup> 허준, MBC, 1999-2000.

<sup>74</sup> 황진이, KBS, 2006.

<sup>75</sup> 『王妃 チャン・ノクス -宮廷の陰謀-』（장녹수, KBS, 1995)

<sup>76</sup> 『妖婦 張禧嬪』（장희빈, SBS, 1995)他、MBC1981年度版、KBS2001年度版。

きるパターンも多い。『武人時代』では史上初の階級反乱である万積の乱にスポットが充てられるが、これは珍しいケースである。また、日本の士農工商の順に似た商人への蔑視の感覚は韓国でも今日まで根強いが、ドラマの中では中継地になりやすい立地からブローカーの重要性が主張される。『商道』は商人が主役の珍しいドラマであるが、張保臯は將軍であると同時に巨商であり、善徳女王や正祖も経済構造を主要な論点とし、王建も松岳の商業的重要性を大きく取り上げ、呉多憐などの長者たちを重視する。とはいえ一番の中心人物は王である。ヨーロッパではブルジョワジーの様式が確立されてからは商人も主役になりうるが、韓国では異なる。さらには農民の主要登場人物がないところも特徴的である。義賊や奴婢がテーマの『イルジメ〜一枝梅』<sup>77</sup>の背景は親明政策か光海の中立外交かの対立で主人公は両班の子、『推奴』<sup>78</sup>は丙子胡乱をめぐり奴婢に落とされた両班や元將軍が主役で、昭顯世子の「なぜ朝鮮は屈服しなければならなかったのか理由を知りたい」という台詞から、奴婢が朝鮮を表していることがわかる。『快刀ホン・ギルドン』<sup>79</sup>『辛屯 高麗中興の功臣』ですら、主人公は最高権力者の血筋につながる。このように社会には流動性がないとみなされ、上下関係が明確であり、両班や王室に繋がらなければ憧れの対象として感情移入できず、劇中で問題解決の糸口をつかむこともできない。

#### d) ミソジニー

朱子学に基づく女性蔑視もほとんどのドラマでみられ、男を立てずに意思を通すと悪女とされる。賢女と老女が批判の対象とされ、仁粹大妃や明成皇后は、男性に「めんどりが鳴けば国が滅びる」<sup>80</sup>と言われ、『善徳女王』は女性の社会進出の象徴として評価されたが、それでも作中では真徳女王と合わせて、女主不能善理を掲げられて攻撃される。『太王四神記』のヨン夫人、『武人時代』の太后、『大王の夢』のサド太上太后、『イ・サン』の貞純王妃、『馬医』『太陽を抱く月』『明成皇后』に出てくる大王大妃など、男性の王は理解者であり、老いた女性は考えの遅れた党利党略しかみない視野の狭い諸悪の根源として描かれる。『大王の夢』のスンマンも、唐や百済と内通し、自らの個人的権力維持のためなら、国を衰退させてもいいとする悪女の典型として現れ、これらの女性たちは党争の悪しき要因とみなされる。

<sup>77</sup> 일지매, SBS, 2008.

<sup>78</sup> 추노, KBS2, 2010.

<sup>79</sup> 쾌도 홍길동, KBS, 2008.

<sup>80</sup> 김·윤비 (クオン・ヨンス訳) 『善徳女王の真実』キネマ旬報社、2012年、14頁。『三国史記』を表した金富軾は「陽は強く陰はやわらかく、男は高く女は低いものなのに、何ゆえに老いた身を引かずら閨房から出てきて国の政事を執るというのか。新羅は女王を王として使えるのに、いまだ国が滅びないことが幸いである。雌鳥が鳴き、雌豚が豚小屋から飛び出して四方八方走り回っているのと何が違うのか」としている。

## おわりに

韓流時代劇において顕著なのは、小さい国であるがゆえの、外国からの介入、征服による植民地化への恐れである。朝鮮半島が統一され、理想像とされる高句麗の領域があれば対等な外交ができるかもしれないという願望が時代劇に如実に表れている。歴史的経験に基づき大国依存派と自立派二つに分かれる韓国の中で、大国依存派の主人公は成立しえない。しかしプライドばかりを重んずる強硬論が建前と化した時には誅されるなど現実的である。歴史的失敗を党争に常に求め、それを克服する課題を提示するなど、韓流映像文化は全体的に内省的であり、主役に一本化した単純な構造ではなく、幾つもの筋で複数の立場を公正に描く点が特徴的である。また国民感情を反映して李成桂や大祚榮などの国の誇りとする人物はその出自についての定説に反しても必ず朝鮮人であるとし、明成皇后の悲劇性をアピールするためには彼女が開化派でなければならないといったことは、歴史ドラマにおける脚色としてやむをえないといえる。本稿は、現時点で可能な限り確認した韓流映像文化における歴史イメージと現代韓国の心性との関係を概観したに過ぎない。大まかな傾向を提示しただけで、史実にかかるバイアスの背景を詳しくみていくこともできなかった。外国意識については朝鮮側のみで、お互いに差別しあっている中国、ウイグル、女真族、日本、アメリカの立場からの双方向的な理解もできていない。また美意識や民芸論など韓国が文化面において発信したいと考えているイメージについては言及することもできなかった。今後はこのような多角的な研究を通じ、映像文化をという大きな交流を軸にした相互理解を積み重ねていき<sup>81</sup>、嫌中憎韓による交流を捨象したトレンド<sup>82</sup>に対して柔軟でバランスのよい視座を提示し、歴史認識や外交などのハードな懸案の解決のための環境づくりに寄与したい。

---

<sup>81</sup>大野俊編『メディア文化と相互イメージ形成 一日中韓の新たな課題―』九州大学出版会、2010年。

<sup>82</sup>朝日新聞、2014年、2月11日。